

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修選択科目	人間の尊厳と自立	鈴木健二郎	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援技術に人間の尊厳と自立がどのように活かされているのかを学び、具体的な生活場面の事例をもとに、高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について基本となる考え方を学ぶ		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	人間の尊厳と自立(自律)とは何かを理解し、「自立支援」を実践できるようになる。		
授業計画	第1回 人間の尊厳とは何か 第2回 尊厳と自立をめぐる規定 第3回 社会福祉領域における歴史 第4回 「自立」「自律」とは 第5回 権利擁護と人権尊重 第6回 高齢者虐待の現状と課題 第7回 日本におけるハンセン病への対応 第8回 権利擁護の視点 第9回 自己実現を支える実践 第10回 自立支援の視点と方法 第11回 介護における自立支援 第12回 自立への意欲と動機付け 第13回 尊厳を損なう可能性 第14回 自立支援とICF 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：試験80%レポート20% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護を実践する場面では尊厳や人権が侵されることがあります。この授業でしっかりと尊厳と自立について理解してください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅠ	藤枝 幹大	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	対人援助のための人間関係について知識と理解を深め、個別・具体的なコミュニケーション技術を学ぶための基礎を作る。授業を通じて自分のコミュニケーションの特性や他者から見た自分を理解し、人間関係を広げるためのコミュニケーションについて演習等を通じて深めていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係づくりのための自分のコミュニケーション傾向を知る ・他者を理解するために必要な態度を理解する ・人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得する 		
授業計画	第1回 自分のコミュニケーションの傾向を知る 第2回 自分と他者を知る 第3回 人間の段階的な発達 第4回 他者と集団の関わりについて知る 第5回 集団の中の人間関係を知る 第6回 人間関係とストレスについて知る 第7回 コミュニケーションの概念 第8回 コミュニケーションの手段 第9回 対人援助関係とコミュニケーション 第10回 援助的人間関係の形成 第11回 組織におけるコミュニケーション 第12回 組織において求められるコミュニケーション 第13回 ブレーンストーミング 第14回 人間関係とコミュニケーション総論 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループで様々な意見を交わしながら演習を行います。 自分を知る為に、普段から自分を客観視する練習をしてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学と臨床心理学の講義歴は25年、心理臨床経験は18年になります。		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅡ	藤枝 幹大	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解し、チームの一員として働くための能力を身につける。 授業や演習を通じてマネジメントに必要な組織の運営管理・人材管理、それらに必要な基本的技術を習得できるように学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームマネジメントの基本となる考え方を知る ・ 介護実践のマネジメントを行う為に必要なチーム運営の基本を知る ・ 実践力向上の為に必要な人材育成の仕組みを理解することができる 		
授業計画	第1回 ヒューマンサービスとしての介護サービス 第2回 求められるチームマネジメント 第3回 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 第4回 コ・メディカルチームを知る 第5回 ケアの為に必要なチーム 第6回 チームの力を最大化する為のマネジメント 第7回 キャリアと求められる実践力 第8回 介護福祉職としてのキャリアデザイン 第9回 介護福祉職のキャリア支援と開発 第10回 自己研鑽に必要な姿勢 第11回 介護サービスを支える組織の構造 第12回 組織が行う事業計画 第13回 介護サービスを支える組織の機能と役割 第14回 組織における災害管理 第15回 修了試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループで様々な意見を交わしながら演習を行います。 自分を知る為に、普段から自分を客観視する練習をしてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学と臨床心理学の講義歴は25年、心理臨床経験は18年になります。		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解 I	山下望	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	社会福祉も、大転換点にあり、その様相を変貌させている。社会福祉の歴史、思想さらに社会保障制度の総合学習を基礎として、現代の求める福祉とは何かをについて、具体的な事例等を活用し理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行っている理由と制度の概要を理解し介護福祉士として制度の原理原則を理解した上で支援を行えるようになる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション - 社会と私は何か関係があるだろうか生活と福祉という視点で考えてみる。</p> <p>第2回 生活と福祉Ⅰ 社会保障の大きな枠組み</p> <p>第3回 生活と福祉Ⅱ 医療保障制度・後期高齢者医療制度など</p> <p>第4回 生活と福祉Ⅲ 雇用・労災保険</p> <p>第5回 生活と福祉Ⅳ 各種社会扶助の概要</p> <p>第6回 生活と福祉Ⅴ 成年後見制度</p> <p>第7回 生活と福祉Ⅵ 日常生活自立支援事業</p> <p>第8回 社会保障制度Ⅰ 生活保護制度（理念や原理原則）</p> <p>第9回 社会保障制度Ⅱ 生活保護制度（保護の原則）</p> <p>第10回 社会保障制度Ⅲ 人口問題と財政問題</p> <p>第11回 社会保障制度Ⅳ 虐待防止や消費者保護</p> <p>第12回 社会保障制度Ⅴ 医療法など</p> <p>第13回 社会保障制度Ⅵ 社会手当・その他の制度</p> <p>第14回 社会保障制度Ⅶ 基本的な仕組み権利や生活を支える制度</p> <p>第15回 定期試験</p>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：試験80%レポート等20% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。		
教員紹介	障害者施設において統括施設長として社会福祉の制度を活用しながら利用者その人が自分らしく暮らせるように支援をしている。		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解Ⅱ	竹内克	2単位 30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援法制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得し、個人情報保護制度などの基礎的知識を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	介護福祉の専門職として、政策や諸制度のについて知ることを前提とし、様々な方を支援する為に制度を使うことを基本とすることを理解し、説明できるようになる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 様々な人と社会に関心を持つ 第2回 介護保険制度Ⅰ 対象の理解・用語の理解・制度の歴史 第3回 介護保険制度Ⅱ サービス利用までの流れ 第4回 介護保険制度Ⅲ 保険者と被保険者の資格要件 第5回 介護保険制度Ⅳ 保険給付の対象者と種類 第6回 介護保険制度Ⅴ 施設サービスの理解 第7回 介護保険制度Ⅵ 居宅サービスの理解 第8回 介護保険制度Ⅶ 地域密着型サービスの理解 第9回 障害者自立支援制度Ⅰ 制度成立の歴史的流れ 第10回 障害者自立支援制度Ⅱ 法律の内容の理解 第11回 障害者自立支援制度Ⅲ サービス内容の理解 第12回 介護実践に関する諸制度Ⅰ 個人情報保護法 第13回 介護実践に関する諸制度Ⅱ 第14回 社会と介護保険制度・障害者自立支援法の関係 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：試験 100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。		
教員紹介	臨床経験8年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必須専門科目	相互交流演習	鈴木健二郎・庄司麻美・鎌田小百合	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	地域の方との交流、クラス間や学科間、学校教員と交流の場を通じて基本的な社会性を学び、適応的な対人交流の経験をする。介護福祉士として対象者や家族との基本的な関わり方につなげる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	個人と集団での演習を通して新しい人間関係の構築を図り、互いに理解し合うことで他者を尊重する意識を持てるようになる。		
授業計画	第1回オリエンテーションの意義と役割 第2回～第4回レクリエーションにおけるコミュニケーション技術 第5回～第8回レクリエーション企画と計画の方法 第9回～10回 レクリエーションの実行と見直し 第11回～第12回レクリエーション発表 第13回～第14回レクリエーション修正 第15回まとめ		
教科書			
参考書	とくになし		
成績評価の方法・基準	評価方法：レクリエーション体験者アンケート結果および課題提出 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者が楽しめるようなレクリエーションを考えるようにし、主役は対象者であることを意識し自己満足にならないように気を付けること。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、作業療法士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	多文化共生	鈴木健二郎	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	授業の中で異なった文化を持つ生徒同士が交流学習することを基本とし、グループワーク演習などを通じて互いの文化的違いを知り認め合い、新しい生活環境を作っていく考え方を皆で考えていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	異文化を持つ他者だけでなく自分と違う意見や考え方を持つ人を受入れ、ともに考えながら問題解決できる対人援助職としての姿勢を身に付ける。		
授業計画	<p>第 1 回オリエンテーション クラスの中にいる生徒同士で自分の文化を紹介していくためのグループ分けと説明</p> <p>第 2 回～第 4 回文化や自国文化紹介のためのグループワーク演習</p> <p>第 5 回～第 7 回グループワーク発表と相互理解のための意見交換</p> <p>第 8 回～9 回日本文化を知る</p> <p>第 10 回～第 12 回 (連続授業)</p> <p>日本文化を知る地域での生活文化風習を見学 青梅市郷土博物館へ</p> <p>第 13 回～第 15 回地域で障害の有無、国籍関わらず共生していくための課題と何が必要なのかを考える。</p>		
教科書			
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	<p>評価方法：レポート 100%</p> <p>基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする</p>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	あらゆる人と共生していくことが、少子高齢化や社会保障費の増大問題などの解決につながります。日本だけの問題ではないことを自覚し未来に継続可能な社会の在り方を考えましょう。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	福祉経営	鈴木健二郎	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	基本の法規をおさえたうえで利益を出して安定した運営を行うことが利用者への利益にもつながることを理解し必要な法規と収支を出しながら運営をしていくための知識を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	福祉で利益を出して健全な運営をしていくことが正しいことであると理解し利用者の利益にもつながることを説明できるようになる。 リーダーとなったときに、必要な人材育成方法などが提示できる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション もしも自分が福祉系の事業を立ち上げるとしたら何をやりたいか個人ワーク</p> <p>第2回 個人で考えた、やってみたい事業で近い業種同志でグループをつくり演習</p> <p>第3回 在宅系施設系サービスの運営基準を学ぶ 講義</p> <p>第4回 在宅系施設系サービスで生じるランニングコストについて学ぶ</p> <p>第5回～第8回 グループワーク演習 自分達で考えた福祉系サービスの事業計画を作成</p> <p>第9回～第12回 グループワーク演習発表と発表後質疑応答</p> <p>第13回～14回 課題修正後提出</p> <p>第15回 最終事業案発表</p>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：立案した事業計画と発表内容で評価します。 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	思いだけで仕事をすると失敗します。関連した法規などを遵守することが利用者の利益を守ることにつながることを理解できるように参加してください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士であり訪問介護事業所、居宅介護支援事業所の運営、サービス付き高齢者住宅および小規模多機能型居宅介護支援事業所の開設から運営まで関わる。		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	介護の基本 A	竹内克	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念・役割・理念を理解する。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の介護福祉の課題と理念を説明できる ・介護福祉士の様々な場面での役割と機能を理解する ・介護福祉士の専門性と理念を理解し、専門職としての態度を身に付ける 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 回 オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">第 16 回 介護福祉士の教育研修体制</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 家族機能の変化</td> <td>第 17 回 地域共生社会と役割</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 地域社会の変化</td> <td>第 18 回 介護予防と介護福祉士</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 介護需要の増加</td> <td>第 19 回 災害と介護福祉士</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 介護概念の変換</td> <td>第 20 回 人生と最終局面と介護福祉士</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 介護問題</td> <td>第 21 回 医療的ケアと介護福祉士</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 介護従事者の多様化</td> <td>第 22 回 様々な職能・学術団体</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 地域を支える介護</td> <td>第 23 回 日本介護福祉士会</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 尊厳を支える</td> <td>第 24 回 養成施設協会と養成方法</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 自立を考える</td> <td>第 25 回 日本介護福祉学会と内容</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 介護福祉士の定義</td> <td>第 26 回 日本介護福祉教育学会と内容</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 介護福祉士の状況</td> <td>第 27 回 職業倫理の意義</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 介護福祉士の機能</td> <td>第 28 回 法令遵守</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 キャリアパス</td> <td>第 29 回 行動規範</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 中間試験</td> <td>第 30 回 定期試験</td> </tr> </table>			第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 介護福祉士の教育研修体制	第 2 回 家族機能の変化	第 17 回 地域共生社会と役割	第 3 回 地域社会の変化	第 18 回 介護予防と介護福祉士	第 4 回 介護需要の増加	第 19 回 災害と介護福祉士	第 5 回 介護概念の変換	第 20 回 人生と最終局面と介護福祉士	第 6 回 介護問題	第 21 回 医療的ケアと介護福祉士	第 7 回 介護従事者の多様化	第 22 回 様々な職能・学術団体	第 8 回 地域を支える介護	第 23 回 日本介護福祉士会	第 9 回 尊厳を支える	第 24 回 養成施設協会と養成方法	第 10 回 自立を考える	第 25 回 日本介護福祉学会と内容	第 11 回 介護福祉士の定義	第 26 回 日本介護福祉教育学会と内容	第 12 回 介護福祉士の状況	第 27 回 職業倫理の意義	第 13 回 介護福祉士の機能	第 28 回 法令遵守	第 14 回 キャリアパス	第 29 回 行動規範	第 15 回 中間試験	第 30 回 定期試験
第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 介護福祉士の教育研修体制																																
第 2 回 家族機能の変化	第 17 回 地域共生社会と役割																																
第 3 回 地域社会の変化	第 18 回 介護予防と介護福祉士																																
第 4 回 介護需要の増加	第 19 回 災害と介護福祉士																																
第 5 回 介護概念の変換	第 20 回 人生と最終局面と介護福祉士																																
第 6 回 介護問題	第 21 回 医療的ケアと介護福祉士																																
第 7 回 介護従事者の多様化	第 22 回 様々な職能・学術団体																																
第 8 回 地域を支える介護	第 23 回 日本介護福祉士会																																
第 9 回 尊厳を支える	第 24 回 養成施設協会と養成方法																																
第 10 回 自立を考える	第 25 回 日本介護福祉学会と内容																																
第 11 回 介護福祉士の定義	第 26 回 日本介護福祉教育学会と内容																																
第 12 回 介護福祉士の状況	第 27 回 職業倫理の意義																																
第 13 回 介護福祉士の機能	第 28 回 法令遵守																																
第 14 回 キャリアパス	第 29 回 行動規範																																
第 15 回 中間試験	第 30 回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施しますので積極的な参加をしてください。																																
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	介護の基本 B	鈴木健二郎	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法。介護を必要とする人の多様な生活の理解をして介護を必要とする人の生活を支える仕組みについて学習する。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICF の視点に基づいた視点で支援方法を検討できるようになる ・ 介護を受ける方の生活歴や個性に合わせた対応ができるような視点を持つ ・ 介護サービス、フォーマル、インフォーマルなどの様々な社会資源があることを理解し、生活全般の支援方法を検討できるようになる 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 回 オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">第 16 回 個別性と多様化の理解</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 自立支援の考え方</td> <td>第 17 回 高齢者の生活と基盤</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 利用者理解の視点 (ICF)</td> <td>第 18 回 生活ニーズ</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 社会参加</td> <td>第 19 回 家族と地域との関わり</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 アクティビティ</td> <td>第 20 回 働くことの意味と活動</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 介護予防の意義</td> <td>第 21 回 障害者の生活の理解</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 生活とリハビリテーション</td> <td>第 22 回 生活を支える基盤</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 リハビリテーションと予防</td> <td>第 23 回 生活ニーズ</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 ADL と IADL</td> <td>第 24 回 家族と地域との関わり</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 就労することの意義</td> <td>第 25 回 働くことの意味と地域活動</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 家族と地域の関わり</td> <td>第 26 回 家族介護の意義と理解</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 生活環境の整備</td> <td>第 27 回 地域連携と包括ケアシステム</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 バリアフリーとユニバーサルデザイン</td> <td>第 28 回 ケアマネジメント</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 福祉のまちづくり</td> <td>第 29 回 インフォーマルとフォーマル</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 中間試験</td> <td>第 30 回 定期試験</td> </tr> </table>			第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 個別性と多様化の理解	第 2 回 自立支援の考え方	第 17 回 高齢者の生活と基盤	第 3 回 利用者理解の視点 (ICF)	第 18 回 生活ニーズ	第 4 回 社会参加	第 19 回 家族と地域との関わり	第 5 回 アクティビティ	第 20 回 働くことの意味と活動	第 6 回 介護予防の意義	第 21 回 障害者の生活の理解	第 7 回 生活とリハビリテーション	第 22 回 生活を支える基盤	第 8 回 リハビリテーションと予防	第 23 回 生活ニーズ	第 9 回 ADL と IADL	第 24 回 家族と地域との関わり	第 10 回 就労することの意義	第 25 回 働くことの意味と地域活動	第 11 回 家族と地域の関わり	第 26 回 家族介護の意義と理解	第 12 回 生活環境の整備	第 27 回 地域連携と包括ケアシステム	第 13 回 バリアフリーとユニバーサルデザイン	第 28 回 ケアマネジメント	第 14 回 福祉のまちづくり	第 29 回 インフォーマルとフォーマル	第 15 回 中間試験	第 30 回 定期試験
第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 個別性と多様化の理解																																
第 2 回 自立支援の考え方	第 17 回 高齢者の生活と基盤																																
第 3 回 利用者理解の視点 (ICF)	第 18 回 生活ニーズ																																
第 4 回 社会参加	第 19 回 家族と地域との関わり																																
第 5 回 アクティビティ	第 20 回 働くことの意味と活動																																
第 6 回 介護予防の意義	第 21 回 障害者の生活の理解																																
第 7 回 生活とリハビリテーション	第 22 回 生活を支える基盤																																
第 8 回 リハビリテーションと予防	第 23 回 生活ニーズ																																
第 9 回 ADL と IADL	第 24 回 家族と地域との関わり																																
第 10 回 就労することの意義	第 25 回 働くことの意味と地域活動																																
第 11 回 家族と地域の関わり	第 26 回 家族介護の意義と理解																																
第 12 回 生活環境の整備	第 27 回 地域連携と包括ケアシステム																																
第 13 回 バリアフリーとユニバーサルデザイン	第 28 回 ケアマネジメント																																
第 14 回 福祉のまちづくり	第 29 回 インフォーマルとフォーマル																																
第 15 回 中間試験	第 30 回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II」 中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 80%、レポート 20% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですがグループワーク演習も行います、積極的な参加をお願いします。																																
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験のある介護福祉士																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉	2年生	前期・後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	介護の基本 C	鈴木健二郎	4単位 60時間																														
授業の概要 (授業の目的)	協働する他職種の機能と役割を理解。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解。 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	チームケアの大切さを理解し利用者の支援へつなげることが出来る。介護事故だけでなく、情報漏洩などの防止の大切さと労働に関する法規などの知識を身に付け自分の身は自分で守る力を身に付ける。																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">第16回 利用者の生活の安全</td> </tr> <tr> <td>第2回 医療・保険の役割と専門性</td> <td>第17回 感染予防の意義と目的</td> </tr> <tr> <td>第3回 福祉職の役割と専門性</td> <td>第18回 感染予防の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第4回 栄養・調理職の役割と専門性</td> <td>第19回 感染予防対策</td> </tr> <tr> <td>第5回 様々な関連職種</td> <td>第20回 薬物療法と薬物耐性</td> </tr> <tr> <td>第6回 チームアプローチの意義と目的</td> <td>第21回 医師法と介護</td> </tr> <tr> <td>第7回 チームアプローチの具体的展開</td> <td>第22回 労働基準法と安全衛生</td> </tr> <tr> <td>第8回 介護事故と法的責任</td> <td>第23回 労働安全と環境整備</td> </tr> <tr> <td>第9回 危険予知と危険回避</td> <td>第24回 労働者災害</td> </tr> <tr> <td>第10回 介護におけるリスク</td> <td>第25回 心の健康管理</td> </tr> <tr> <td>第11回 リスクマネジメント</td> <td>第26回 感情労働</td> </tr> <tr> <td>第12回 ヒヤリハット</td> <td>第27回 身体の健康管理</td> </tr> <tr> <td>第13回 防火・防災・減災</td> <td>第28回 労働環境改善の視点</td> </tr> <tr> <td>第14回 緊急通報システム</td> <td>第29回 労働組合と関係法規</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間試験</td> <td>第30回 定期試験</td> </tr> </table>			第1回 オリエンテーション	第16回 利用者の生活の安全	第2回 医療・保険の役割と専門性	第17回 感染予防の意義と目的	第3回 福祉職の役割と専門性	第18回 感染予防の基礎知識	第4回 栄養・調理職の役割と専門性	第19回 感染予防対策	第5回 様々な関連職種	第20回 薬物療法と薬物耐性	第6回 チームアプローチの意義と目的	第21回 医師法と介護	第7回 チームアプローチの具体的展開	第22回 労働基準法と安全衛生	第8回 介護事故と法的責任	第23回 労働安全と環境整備	第9回 危険予知と危険回避	第24回 労働者災害	第10回 介護におけるリスク	第25回 心の健康管理	第11回 リスクマネジメント	第26回 感情労働	第12回 ヒヤリハット	第27回 身体の健康管理	第13回 防火・防災・減災	第28回 労働環境改善の視点	第14回 緊急通報システム	第29回 労働組合と関係法規	第15回 中間試験	第30回 定期試験
第1回 オリエンテーション	第16回 利用者の生活の安全																																
第2回 医療・保険の役割と専門性	第17回 感染予防の意義と目的																																
第3回 福祉職の役割と専門性	第18回 感染予防の基礎知識																																
第4回 栄養・調理職の役割と専門性	第19回 感染予防対策																																
第5回 様々な関連職種	第20回 薬物療法と薬物耐性																																
第6回 チームアプローチの意義と目的	第21回 医師法と介護																																
第7回 チームアプローチの具体的展開	第22回 労働基準法と安全衛生																																
第8回 介護事故と法的責任	第23回 労働安全と環境整備																																
第9回 危険予知と危険回避	第24回 労働者災害																																
第10回 介護におけるリスク	第25回 心の健康管理																																
第11回 リスクマネジメント	第26回 感情労働																																
第12回 ヒヤリハット	第27回 身体の健康管理																																
第13回 防火・防災・減災	第28回 労働環境改善の視点																																
第14回 緊急通報システム	第29回 労働組合と関係法規																																
第15回 中間試験	第30回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施しますので積極的な参加をしてください。																																
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験のある介護福祉士																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術 I	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を理解し、介護を必要とする人へのコミュニケーションについて理解を深め、支援関係の構築に必要な具体的な介護場面における対応技術を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護でのコミュニケーションの意義・目的・役割を学ぶことができる ・具体的なケア場面におけるコミュニケーションについて考える ・様々な障害特性に応じたコミュニケーションのとり方について考えることができる 		
授業計画	第1回 コミュニケーションとは 第2回 援助関係を構築するための原則 第3回 コミュニケーション技術① 第4回 コミュニケーション技術② 第5回 コミュニケーション技術③ 第6回 コミュニケーション技術④ 第7回 集団におけるコミュニケーション 第8回 コミュニケーション障害 第9回 コミュニケーション障害のある人への支援① 第10回 コミュニケーション障害のある人への支援② 第11回 コミュニケーション障害のある人への支援③ 第12回 コミュニケーション障害のある人への支援④ 第13回 コミュニケーション障害のある人への支援⑤ 第14回 コミュニケーション障害のある人への支援⑥ 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習とグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	臨床経験8年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術Ⅱ	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	多くの専門職が関わる介護現場において多職種チームの一員として必要な報告ができるように集団コミュニケーション法について理解を深める。 チームケアを含めた介護実践に必要なコミュニケーション技術を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員間で協働的な関係を築くことができる ・多職種と協働的な関係を築き情報の共有化も意義を理解する ・利用者・家族に対するコミュニケーション技術を習得する 		
授業計画	第1回 家族とのコミュニケーション① 第2回 家族とのコミュニケーション② 第3回 家族とのコミュニケーション③ 第4回 チームにおけるコミュニケーション① 第5回 チームにおけるコミュニケーション② 第6回 介護記録① 第7回 介護記録② 第8回 介護記録③ 第9回 介護記録④ 第10回 介護福祉職が行う会議 第11回 事例検討に関する技術 第12回 情報の活用と管理 第13回 コミュニケーション技術で学んだこと① 第14回 コミュニケーション技術で学んだこと② 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人演習とグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	臨床経験8年以上の実務経験を持つ看護師		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 A I	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<p>尊厳保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行う知識、技術を習得する。その人らしく生活するための手段や生活が楽しみとなることを目指した「身支度」の介護のプロセスと方法を学ぶ。</p>		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳の保持や利用者の個別性に配慮し、自立に向けた生活支援の判断と実践ができる ・ 生活習慣の中で装いの楽しみが見いだせるような配慮ができる ・ 身支度の意味と生活にどんな影響を及ぼすのかを説明できる ・ 身体状況に合わせた衣類交換ができる ・ 口腔ケアの意味について説明できる ・ 身体状況に応じた口腔ケアを選択し、実施できる 		
授業計画	<p>第1回 身支度の介護①身支度の意義と目的 第2回 身支度の介護②個々に応じた「装い・整容」 第3回 身支度の介護③衣服の着脱の介助（演習）① 第4回 身支度の介護④衣服の着脱の介助（演習）② 第5回 身支度の介護⑤衣服の着脱の介助（演習）③ 第6回 身支度の介護⑥事例に基づいた具体的な援助 第7回 身支度の介護⑦事例に基づいた具体的な援助・発表 第8回 身支度の介護⑧事例に基づいた具体的な援助・発表 第9回 身支度の介護⑨口腔ケアの意義と目的 第10回 身支度の介護⑩状態に応じた口腔の介護① 第11回 身支度の介護⑪状態に応じた口腔の介護② 第12回 身支度の介護⑫口腔の清拭法・義歯の清掃法 第13回 身支度の介護⑬身支度における多職種との連携 第14回 実技総復習 第15回 定期試験</p>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	<p>評価方法：筆記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする</p>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個々の好みや希望を理解しながら援助方法を学んでいきましょう		
教員紹介	臨床経験20年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 AⅡ	鈴木健二郎・木村欣司	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	利用者にとってよりよい食事とは何かについて学習し、食事に関する基礎的な知識を習得する。 身心状態のレベルを理解し、自立に向けた適切な食事介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、習得する。 食後の口腔ケアの意義と身心状態に応じた口腔ケアを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	食事の意義と目的について理解し、栄養と食事の基礎知識を習得する。「おいしく食べる事」を支える介護の工夫や、環境づくり、好みへの配慮、調理の工夫、福祉用具の活用について理解できる。食事の姿勢、状況に合わせた食事介助方法を理解し、リスクマネジメントを考え、その予防実施ができる。口腔の清潔の意義について理解できる。		
授業計画	第1回 利用者の食事の意義と介護者の役割 第2回 自立に向けた食事の介護・口腔 第3回 食事のアセスメント 第4回・第5回 食事形態の工夫① 第6回 利用者の食事介助①環境面の留意点 第7回・第8回 利用者の食事介助②食事介助時の留意点 第9回 認知症高齢者の食事介護 第10回 視覚に障害を持つ利用者の食事介護 第11回 食事の介護における多職種との連携 第12回 誤嚥の予防と対応①（嚥下体操・唾液腺マッサージ・アイスマッサージ・姿勢） 第13回 誤嚥の予防と対応②（介護職員が準備できるもの） 第14回 実技総復習 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業時タオルを持参すること 普段、自分が食べている食材の歯ごたえや飲み込みやすさなどを意識して観察しながら食べましょう		
教員紹介	臨床経験 10年以上の介護福祉士・言語聴覚士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 B I	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	排泄に関する基礎的な知識と技術を身につけ、尊厳を保持や個別性を重要視しながら、利用者の心身の状況に応じた適切な排泄方法を実践できる		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<p>排泄の意義と目的・メカニズム等について理解し、根拠について説明できる力を身に着ける。</p> <p>必要な福祉用具を選択・活用し、障害に応じた排泄の支援ができる。トイレ・ポータブルトイレ・差し込み便器・おむつ等の使用方法を理解し、利用者の状態・状況に応じて選択し実践できる。</p> <p>失禁時や認知症の人に対して適切な対応がとれる。</p> <p>安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、尊厳を保持し自立に向けた排泄介護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム①</p> <p>第2回 排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム①</p> <p>第3回 排泄に関する利用者のアセスメント ・援助内容を組み立てる</p> <p>第4回 気持ち良い排泄を支える介護 介護の工夫と環境づくり</p> <p>第5回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法①</p> <p>第6回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法②</p> <p>第7回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点①</p> <p>第8回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点②</p> <p>第9回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点③</p> <p>第10回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点④</p> <p>第11回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点⑤</p> <p>第12回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点⑥</p> <p>第13回 他職種との役割と協働・観察の視点・各職種との役割と協働</p> <p>第14回 実技総復習</p> <p>第15回 定期試験</p>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	<p>評価方法：筆記試験50% 実技試験50%</p> <p>基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする</p>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分が介助される立場になって実践できるように心がけましょう		
教員紹介	臨床経験20年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 B II	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士に必要な、入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を身に着ける。個人のプライバシーに配慮しながら「楽しみで気持ちの良い入浴」にする事ができるよう知識、技術、観察力を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	入浴の意義と目的について理解し、清潔保持の重要性と必要な福祉用具を選択・活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴や清潔保持の支援ができる。 安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしさや楽しみとなる入浴について考え実践できる。 個々の背景を理解し、観察を行い声掛けや誘導方法を実践できる。		
授業計画	第1回 入浴の意義と目的① 第2回 入浴の意義と目的② 第3回 入浴に関する利用者のアセスメント 第4回 爽快感・安楽を支える介護 第5回 利用者の状況・状態に応じた介助の留意点① 第6回 利用者の状況・状態に応じた介助の留意点② 第7回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法① 第8回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法② 第9回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法③ 第10回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法④ 第11回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法⑤ 第12回 安全・的確な入浴・清潔保持の介助方法⑥ 第13回 他の職種の役割と協働 第14回 実技総復習 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	臨床経験20年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 C I	鈴木 健二郎	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として「移動」における介護技術の根拠を理解し、個々に対応できる応用力を学び、現場での実践で活用できる技術と、能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	移動の意義及び目的を理解し、自分の言葉で表現できる 移動介助を必要とする人に、適切な介護技術の選択・実施・根拠の説明・個別性を考慮した対応ができる。 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を理解しながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第 1 回 「移動」の意義と目的の理解 第 2 回 安全に目的を果たす移動を支える介護 第 3 回 安楽な「体位・姿勢」の保持① 第 4 回 安楽な「体位・姿勢」の保持② 第 5 回 「車いすでの移動」を支える介護① 第 6 回 「車いすでの移動」を支える介護② 第 7 回 安全な「歩行」を支える介護① 第 8 回 安全な「歩行」を支える介護② 第 9 回 身体機能が低下している人「移動」介護① 第 10 回 身体機能が低下している人「移動」介護② 第 11 回 身体機能が低下している人「移動」介護③ 第 12 回 変化の気づきと対応 第 13 回 移動の介護における多職種との連携 第 14 回 実技総復習 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」 中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 実技試験 50% S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 C II	山下 直子・林義巳	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	自立に向けた居住環境の整備を学ぶ。対象となる人の生活上のニーズの把握から進め、具体化していく方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	対象となる人の生活の状況を整理し、能力を活用・発揮し自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 生活空間の構成要素と意義・目的を理解できる。 ICFの視点にもとづいて、居住環境を生活の流れの中で理解できる 介護保険で利用できる住宅改修や福祉用具を理解する 自立に向けた居住環境の整備に向けて、他職種との連携による解決策を学ぶ。		
授業計画	第 1 回 自立に向けた住環境の整備① (住まいの役割と機能) 第 2 回 自立に向けた住環境の整備② (生活空間) (家族との生活空間) 第 3 回 自立に向けた住環境の整備③ (生活空間) (人体寸法・起居様式) 第 4 回 自立に向けた住環境の整備④ (生活空間) (加齢と生活空間) 第 5 回 自立に向けた住環境の整備⑤ (快適な室内環境) 第 6 回 自立に向けた住環境の整備⑥ (快適な室内環境) 第 7 回 自立に向けた住環境の整備⑦ (快適な室内環境) 第 8 回 自立に向けた住環境の整備⑧ (日本家屋問題と対策・階段の条件) 第 9 回 自立に向けた住環境の整備⑨ (住宅改修と介護保険制度) 第 10 回 自立に向けた住環境の整備⑩ (高齢者・障害者の住まい) 第 11 回 自立に向けた住環境の整備⑪ (高齢者・障害者の住まい) 第 12 回 自立に向けた住環境の整備⑫ (多職種との連携) 第 13 回 自立に向けた住環境の整備⑬ (福祉用具の重要性) 第 14 回 自立に向けた住環境の整備⑭ (福祉用具の重要性) 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 100% 基準：S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	臨床経験20年以上の実務経験を持つ介護福祉士・福祉住環境コーディネータ2級を持つ作業療法士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 D I	山下直子・鈴木真生・西片裕・山崎暁	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援とは何かを考え、人それぞれの価値観があることを常に考え、その人らしく生活ができるよう専門職として援助できる技術を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	尊厳を守るという観念から、その人らしさ見出し、どのような状態でもその人の自立・自律を尊重し、能力を引き出し、見守る技術を養う。専門職が行う過程で常に安全・安楽な技術を用いることができるよう、基本の技術を修得する		
授業計画	第 1 回 生活支援技術の理解 第 2 回 利用者の状態の状況に応じた生活支援技術とは 第 3 回 障害に応じた生活支援技術 I 視覚障害に応じた介護 第 4 回 障害に応じた生活支援技術 I 聴覚・言語障害に応じた介護 第 5 回 障害に応じた生活支援技術 I 重複障害（盲ろう）に応じた介護 第 6 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）心臓・呼吸器機能障害に応じた介護 第 7 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）腎臓・肝臓機能障害に応じた介護 第 8 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）膀胱・直腸・小腸・HIV による免疫機能障害に応じた介護 第 9 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）重度心身障害に応じた介護 第 10 回 障害に応じた生活支援技術 II（知的障害に応じた介護） 第 11 回 障害に応じた生活支援技術 II（精神障害に応じた介護） 第 12 回 障害に応じた生活支援技術 II（高次機能障害に応じた介護） 第 13 回 障害に応じた生活支援技術 II（発達障害に応じた介護） 第 14 回 認知症の人に応じた生活支援技術 第 15 回 まとめ・定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6・8 生活支援技術 I・III」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	人の生活を受け入れるのと同じく仲間の意見を受け入れ、理解するように努めましょう		
教員紹介	臨床経験 20 年以上の実務経験を持つ介護福祉士・言語聴覚士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 D II	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	睡眠・終末期の介護について、介護福祉士としての役割を果たせるよう技術を身につける。個々の利用者の人生観や価値観を理解し、生活の背景にも目を向けながら、その人らしく快適に充実した時間を過ごせるよう介護福祉士としての力量をつける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につなげられるよう、その人の生活全般を理解する観察力・洞察力を養う 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、専門職として終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践ができるようになる		
授業計画	第1回 休息・睡眠とは 第2回 快適な睡眠の一連の流れ 第3回 安眠を阻害する要因 第4回 安眠を促す介護をするために介護福祉職がすべきこと① 第5回 安眠を促す介護をするために介護福祉職がすべきこと② 第6回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具① 第7回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具② 第8回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具③ 第9回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具④ 第10回 休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）① 第11回 休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）② 第12回 睡眠障害とその支援 第13回 休息・睡眠における多職種連携の必要性① 第14回 休息・睡眠における多職種連携の必要性② 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 実技試験 50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	臨床経験20年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 E I	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として、その人の生活が継続できるよう個々の状態に応じた家事支援が援助できるよう、基本的な知識、技術を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	決められた時間内に決められたサービス内容を行うことができる 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を見極めながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第 1 回 家事の意義と重要性 第 2 回 自立した家事の一連の流れ 第 3 回 家事支援技法 買い物① 第 4 回 家事支援技法 買い物② 第 5 回 家事支援技法 調理① 第 6 回 家事支援技法 調理② 第 7 回 家事支援技法 洗濯① 第 8 回 家事支援技法 洗濯② 第 9 回 家事支援技法 掃除・ごみ捨て 第 10 回 家事支援技法 裁縫 第 11 回 家事支援技法 衣類・寝具の衛生管理① 第 12 回 家事支援技法 衣類・寝具の衛生管理② 第 13 回 家事支援技法 家庭経営 第 14 回 家事の介護における多職種との連携 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士講座 6 生活支援技術 I」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法:筆記試験 40% 実技試験 30% 提出課題 20% 作品課題 10% 基準:S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元の見えないシャツを着用し、爪は短く切り、髪はまとめ、衛生管理留意すること		
教員紹介	臨床経験 20 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 E II	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	人生最終段階にある人と家族をケアするために支援者として、利用者それぞれの経過を理解し状況に沿った支援が実践できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	延命治療, 緩和ケア, リビングウィル等、尊厳の保持とは何かを学ぶ。終末期の心身状況を理解、QOLを高める身体・生活援助と、共感、呼応する対話で精神的サポートができる。 在宅・施設ターミナルケアでの多職種との連携、臨終時の介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割を理解する。		
授業計画	第 1 回 終末期の介護の意義と目的① 第 2 回 終末期の介護の意義と目的② 第 3 回 終末期ケアが行われる現場① 第 4 回 終末期ケアが行われる現場② 第 5 回 終末期ケアが行われる現場③ 第 6 回 人生最終段階におけるアセスメントの視点 第 7 回 本人・家族が死を受容するまで 第 8 回 終末期の心身状況 QOL を高める身体生活援助 第 9 回 終末期の利用者と家族の心理とサポート 第 10 回 終末期の利用者と家族とのコミュニケーション 第 11 回 死が近づいたときの介護 第 12 回 在宅ターミナルケアの多職種との連携 第 13 回 施設ターミナルケアと多職種との連携 第 14 回 臨終期の対応技術演習とグリーフケア 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 実技試験 50% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	母国や地域ごとの埋葬慣習を調べておきましょう。		
教員紹介	臨床経験 20 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																																																												
介護福祉学科	1 学年	後期	講義																																																												
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																																																												
必修専門科目	介護過程 I	竹内 克	4 単位 60 時間																																																												
授業の概要 (授業の目的)	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する																																																														
授業の到達目標 (学生の行動目標)	結果だけでなくプロセスを重視する姿勢と着眼点を持ち介護過程の意義を説明できるようになる。																																																														
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">第 1 回</td> <td style="width: 45%;">オリエンテーション</td> <td style="width: 25%;">第 1 6 回</td> <td style="width: 5%;">アセスメントの意義手法</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>介護過程とは 意義</td> <td>第 1 7 回</td> <td>アセスメントと ICF</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>介護過程とは 目的</td> <td>第 1 8 回</td> <td>実習振り返り 確認</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>介護過程の全体像</td> <td>第 1 9 回</td> <td>アセスメント情報の解釈</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>介護過程と ICF</td> <td>第 2 0 回</td> <td>介護計画のとは</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>ICF の視点と介護過程</td> <td>第 2 1 回</td> <td>施設介護計画</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>介護過程の展開の理解</td> <td>第 2 2 回</td> <td>居宅個別援助計画</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>インテーク疑似体験</td> <td>第 2 3 回</td> <td>目標の設定の仕方</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>インテーク疑似体験</td> <td>第 2 4 回</td> <td>介護計画立案と留意点</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回</td> <td>生活支援と介護過程</td> <td>第 2 5 回</td> <td>介護の実施とは</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回</td> <td>介護過程と事例検討</td> <td>第 2 6 回</td> <td>記録の書き方演習</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回</td> <td>アセスメント思考方法</td> <td>第 2 7 回</td> <td>記録の書き方演習</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回</td> <td>アセスメント視点</td> <td>第 2 8 回</td> <td>評価の意義と目的</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回</td> <td>アセスメント疑似体験</td> <td>第 2 9 回</td> <td>評価の実際 演習</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回</td> <td>情報の整理</td> <td>第 3 0 回</td> <td>定期試験</td> </tr> </table>			第 1 回	オリエンテーション	第 1 6 回	アセスメントの意義手法	第 2 回	介護過程とは 意義	第 1 7 回	アセスメントと ICF	第 3 回	介護過程とは 目的	第 1 8 回	実習振り返り 確認	第 4 回	介護過程の全体像	第 1 9 回	アセスメント情報の解釈	第 5 回	介護過程と ICF	第 2 0 回	介護計画のとは	第 6 回	ICF の視点と介護過程	第 2 1 回	施設介護計画	第 7 回	介護過程の展開の理解	第 2 2 回	居宅個別援助計画	第 8 回	インテーク疑似体験	第 2 3 回	目標の設定の仕方	第 9 回	インテーク疑似体験	第 2 4 回	介護計画立案と留意点	第 1 0 回	生活支援と介護過程	第 2 5 回	介護の実施とは	第 1 1 回	介護過程と事例検討	第 2 6 回	記録の書き方演習	第 1 2 回	アセスメント思考方法	第 2 7 回	記録の書き方演習	第 1 3 回	アセスメント視点	第 2 8 回	評価の意義と目的	第 1 4 回	アセスメント疑似体験	第 2 9 回	評価の実際 演習	第 1 5 回	情報の整理	第 3 0 回	定期試験
第 1 回	オリエンテーション	第 1 6 回	アセスメントの意義手法																																																												
第 2 回	介護過程とは 意義	第 1 7 回	アセスメントと ICF																																																												
第 3 回	介護過程とは 目的	第 1 8 回	実習振り返り 確認																																																												
第 4 回	介護過程の全体像	第 1 9 回	アセスメント情報の解釈																																																												
第 5 回	介護過程と ICF	第 2 0 回	介護計画のとは																																																												
第 6 回	ICF の視点と介護過程	第 2 1 回	施設介護計画																																																												
第 7 回	介護過程の展開の理解	第 2 2 回	居宅個別援助計画																																																												
第 8 回	インテーク疑似体験	第 2 3 回	目標の設定の仕方																																																												
第 9 回	インテーク疑似体験	第 2 4 回	介護計画立案と留意点																																																												
第 1 0 回	生活支援と介護過程	第 2 5 回	介護の実施とは																																																												
第 1 1 回	介護過程と事例検討	第 2 6 回	記録の書き方演習																																																												
第 1 2 回	アセスメント思考方法	第 2 7 回	記録の書き方演習																																																												
第 1 3 回	アセスメント視点	第 2 8 回	評価の意義と目的																																																												
第 1 4 回	アセスメント疑似体験	第 2 9 回	評価の実際 演習																																																												
第 1 5 回	情報の整理	第 3 0 回	定期試験																																																												
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版																																																														
参考書	プリントを適時配布する																																																														
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 70% 提出課題 30% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする																																																														
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習復習として要点をまとめて文章を作る練習をしておくこと。																																																														
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士																																																														

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法		
介護福祉学科	2 学年	前期	講義		
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数		
必修専門科目	介護過程Ⅱ	竹内克	4 単位 60 時間		
授業の概要 (授業の目的)	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する				
授業の到達目標 (学生の行動目標)	実習体験と事例を用いて介護過程を展開する意義・目的を理解する。ケアマネジメントとケアプランを理解し個別援助計画との違いを理解する。 チームアプローチにおける利用者支援の実際を理解する。				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 オリエンテーション 第2回 介護過程の実践的展開 1 第3回 介護過程の実践的展開 2 第4回 介護過程の実践的展開 3 第5回 介護過程の実践的展開 4 第6回 介護過程の実践的展開 5 第7回 介護過程展開の実際 1 第8回 介護過程展開の実際 2 第9回 介護過程展開の実際 3 第10回 介護過程展開の実際 4 第11回 情報の共有とアセスメントツール 第12回 アセスメントツールの活用 第13回 アセスメントツールの活用② 第14回 ケアプランと個別援助計画の違い 第15回 中間試験 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第16回 介護過程とケアマネジメントの関係性 第17回 在宅と施設での違い 第18回 障害と高齢者領域での違い 第19回 ケアマネジメントと介護過程 第20回 ケアマネジメントと介護過程Ⅱ 第21回 パーソンセンタードケア方式 第22回 チームアプローチの意義 第23回 チームアプローチの実際 第24回 実習Ⅲにむけて インテーク 第25回 実習Ⅲにむけて アセスメント 第26回 情報整理・分析方法・演習 第27回 課題抽出・ニーズの把握方法 第28回 目標の立て方評価の方法 第29回 地域密着型の個別援助計画 第30回 定期試験 </td> </tr> </table>			第1回 オリエンテーション 第2回 介護過程の実践的展開 1 第3回 介護過程の実践的展開 2 第4回 介護過程の実践的展開 3 第5回 介護過程の実践的展開 4 第6回 介護過程の実践的展開 5 第7回 介護過程展開の実際 1 第8回 介護過程展開の実際 2 第9回 介護過程展開の実際 3 第10回 介護過程展開の実際 4 第11回 情報の共有とアセスメントツール 第12回 アセスメントツールの活用 第13回 アセスメントツールの活用② 第14回 ケアプランと個別援助計画の違い 第15回 中間試験	第16回 介護過程とケアマネジメントの関係性 第17回 在宅と施設での違い 第18回 障害と高齢者領域での違い 第19回 ケアマネジメントと介護過程 第20回 ケアマネジメントと介護過程Ⅱ 第21回 パーソンセンタードケア方式 第22回 チームアプローチの意義 第23回 チームアプローチの実際 第24回 実習Ⅲにむけて インテーク 第25回 実習Ⅲにむけて アセスメント 第26回 情報整理・分析方法・演習 第27回 課題抽出・ニーズの把握方法 第28回 目標の立て方評価の方法 第29回 地域密着型の個別援助計画 第30回 定期試験
第1回 オリエンテーション 第2回 介護過程の実践的展開 1 第3回 介護過程の実践的展開 2 第4回 介護過程の実践的展開 3 第5回 介護過程の実践的展開 4 第6回 介護過程の実践的展開 5 第7回 介護過程展開の実際 1 第8回 介護過程展開の実際 2 第9回 介護過程展開の実際 3 第10回 介護過程展開の実際 4 第11回 情報の共有とアセスメントツール 第12回 アセスメントツールの活用 第13回 アセスメントツールの活用② 第14回 ケアプランと個別援助計画の違い 第15回 中間試験	第16回 介護過程とケアマネジメントの関係性 第17回 在宅と施設での違い 第18回 障害と高齢者領域での違い 第19回 ケアマネジメントと介護過程 第20回 ケアマネジメントと介護過程Ⅱ 第21回 パーソンセンタードケア方式 第22回 チームアプローチの意義 第23回 チームアプローチの実際 第24回 実習Ⅲにむけて インテーク 第25回 実習Ⅲにむけて アセスメント 第26回 情報整理・分析方法・演習 第27回 課題抽出・ニーズの把握方法 第28回 目標の立て方評価の方法 第29回 地域密着型の個別援助計画 第30回 定期試験				
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版				
参考書	プリントを適時配布する				
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験70% 提出課題30% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする				
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習復習として要点をまとめて文章を作る練習をしておくこと。				
教員紹介	臨床経験8年以上の実務経験のある介護福祉士				

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉	2 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅲ	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながるように生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士の仕事の魅力にふれる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	事例を通じて、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解する。 感情的ではなく科学的な理解を元に、個別援助を考え仕事をする自分の感情を整理することの必要性を理解できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 介護福祉士の仕事の魅力について 第3回 実習での実践内容をグループで共有 発表 第4回 実習中に参加した会議内容についてグループで共有 発表 第5回 介護過程演習 模擬カンファレンス 第6回 介護過程におけるインフォームドコンセプトについて 第7回 家族介護者の立場の理解 第8回 アセスメントツールを実際に使用してみた体験を共有する。 第9回 実習後のアセスメント力を自己評価 第10回 様々なアセスメントツールの利点などを話し合う 第11回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 第12回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 第13回 終末期の介護過程 第14回 自分ならどう作ってほしいのか 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験60%課題提出40% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習後に身に付けた専門職としての視点やあるべき支援方法などを振り返りながら学習します。実習中で学んだ内容を予習復習しておくこと。		
教員紹介	臨床経験8年以上の実務経験のある介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習 I	竹内 克	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	高齢者の生活と介護サービスを理解し、その人らしく元気で暮らせる仕組みを学ぶ。授業で習得した内容がどのように利用者の生活に反映されていくのかという知識と技術の統合力、応用力、実践力が必要となる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	居宅で利用する介護サービスを理解し、通所介護事業所での実習で在宅で生活する利用者の生活とサービスを理解する。実習のイメージを膨らませながら準備ができ、施設概要とそこでの生活像を理解し、介護福祉士としての役割を明確化できる。 コミュニケーション方法・マナーを習得する。		
授業計画	第 1 回 介護福祉士の職業倫理 第 2 回 介護実習の意義と目的 第 3 回 介護活動と介護の特性 第 4 回 施設理解①通所介護・地域密着型通所介護 第 5 回 施設理解②障がい者施設・ 第 6 回 施設理解③特別養護老人ホーム・老人保健施設 第 7 回 マナー・接遇・コミュニケーション方法 第 8 回 記録①観察記録 第 9 回 記録②プロセスレコードの活用方法 第 10 回 記録③実習での記録 第 11 回 個人票・実習計画書の記入方法 第 12 回 実習日誌の記入方法 第 13 回 実習前ガイダンス① 第 14 回 実習前ガイダンス② 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	成績評価：筆記試験 80% 提出課題 20% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習先および地域の介護施設について調べておくこと		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅱ	竹内 克	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	実習を振り返り、学校で習得した内容が実習でどのように実践できたのかを振り返り、自己の課題を明確化しにし、介護福祉士としての知識・技術・態度を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	実習施設概要と利用者の生活ニーズを整理、理解でき介護福祉士としての役割を明確化できる。 介護実習Ⅰを振り返り、プロセスレコードを通じて次の実習への課題を明確化できる。		
授業計画	第 1 回 実習報告会 第 2 回 実習事後指導① (記録物再確認) 第 3 回 実習事後指導② (プロセスレコード) 第 4 回 実習事後指導③ (疑問・困難) 第 5 回 実習事前指導① (入所施設の概要) 第 6 回 実習事前指導② (入所施設と利用者の生活像) 第 7 回 実習事前指導③ (利用者の個別介護計画書) 第 8 回 介護過程・情報収集 第 9 回 記録① 第 10 回 記録② 第 11 回 個人票・実習計画書・実習日誌の記入方法① 第 12 回 個人票・実習計画書・実習日誌の記入方法② 第 13 回 介護福祉士と多職種との連携 第 14 回 緊急時対応で求められるもの 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	成績評価：筆記試験 70% 提出課題 30% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	記録に使う適切な表現方法について普段から意識しておくこと。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅲ	山下 直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	やむなく施設で生活する利用者がどのような生活を望み生活しているのかを多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解し、専門的・計画的に介護サービスを提供できる能力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	個々の利用者の心身の状況に応じた介護実践の必要性を理解できる。施設でのサービス内容を理解し、介護過程の展開を通じて対象者を理解し、本人が望んでいる生活と自立を支援するための介護過程を理解する。		
授業計画	第 1 回 介護実習Ⅰでの振り返り「プロセスレコード」 第 2 回 介護実習Ⅰでの振り返り・グループワーク 第 3 回 介護実習Ⅱのあり方・オリエンテーション 第 4 回 実習要項①（実習の目的・目標の理解） 第 5 回 実習要項②（自己課題の明確化） 第 6 回 介護の展開①情報収集・生活課題の明確化 第 7 回 介護の展開②情報収集・生活課題の明確化 第 8 回 介護の展開③介護計画書の立案・実施・評価・修正 第 9 回 介護の展開③介護計画書の立案・実施・評価・修正 第 10 回 実習記録・提出物の確認① 第 11 回 実習記録・提出物の確認② 第 12 回 実習先施設の概要と地域との関わり 第 13 回 実習先事前訪問の仕方・オリエンテーション 第 14 回 実習中の事故対応について再確認 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 80% 提出課題 20% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護過程で学んだことを実践できるように復習をしておくこと。		
教員紹介	臨床経験 20 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅳ	鈴木 健二郎	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護についての2年間の総復習として自己課題を明確にし、知識・技術だけでなく介護実習での介護過程を通じて実践研究の意義とその方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	習得すべき介護技術ができるようになる。 自分自身の介護観を構築することができる。 介護実習での総まとめとして介護過程の展開方法を実践し理解できる。		
授業計画	第1回 介護実習Ⅱの振り返り 第2回 実習要項の確認① 記録物の記入方法と留意点 第3回 実習要項の確認② 第4回 介護計画の確認 第5回 事例のまとめ方① 第6回 事例のまとめ方② 第7回 事例のまとめ、進捗状況確認・個別指導 第8回 事例報告事例発表の方法 第9回 事例報告事例発表の方法・リハーサル（役割分担） 第10回 事例実践研究発表会 第11回 事例実践研究発表会 第12回 事例研究発表会 第13回 介護技術確認 第14回 介護技術確認 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法:筆記試験40% 実技試験20% 提出課題20% 実習評価20% 基準:S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	知識、技術の総復習として疑問点を克服しておきましょう。		
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習 I	鈴木健二郎・中田史宏・山下直子・竹内克	5 単位 216 時間
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習 I - I 1 年生前期 8 月 通所介護施設 5 日間 実習 I - II 1 年生後期 1 月、2 月 地域密着型介護施設（小規模多機能・グループホーム）8 日間 実習 I - III 1 年生後期 2 月 老人福祉施設、有料老人ホーム、介護老人保健施設 9 日間 実習 I - IV 1 年生後期 3 月 障害者施設生活介護 5 日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座 10 介護実習」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表 60% 課題提出 40%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の看護師、臨床経験 10 年以上の介護福祉士、実習生の指導経験のある臨床経験 20 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	夏季休暇中	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅱ	鈴木健二郎・中田史宏・山下直子・竹内克	6 単位 240 時間
授業の概要 (授業の目的)	他職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、他職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。介護か知恵の展開を通じて対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	介護過程の一連の流れでプロセス重視の意味を理解して個別援助計画を立案し支援実施後の評価を行い、必要があれば再計画を立てることができるようになる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅱ 2年生上期7月8月 老人福祉施設・老人保健施設 30日間 *実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座10 介護実習」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：実習終了後の評価表60% 課題提出40% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、実習生の指導経験のある臨床経験20年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	こころとからだのしくみⅠ	中田 史宏・木村欣司	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	基本的な人体の構造と機能の知識を身につける。介護サービスを行う際に必要な基礎的な知識を理解し、介護の場面に応じた援助や観察ができるように根拠も踏まえて学ぶ。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の解剖・生理が理解できる ・利用者の支援に必要とする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 「健康とは」何か</td> <td style="width: 50%;">第16回 移動の基礎的知識</td> </tr> <tr> <td>第2回 からだのしくみ身体各部</td> <td>第17回 移動のしくみ</td> </tr> <tr> <td>第3回 からだのしくみ脳・神経</td> <td>第18回 心身機能低下と移動</td> </tr> <tr> <td>第4回 からだのしくみ感覚器</td> <td>第19回 移動に関する観察</td> </tr> <tr> <td>第5回 からだのしくみ呼吸器</td> <td>第20回 身じたくの基礎的知識①</td> </tr> <tr> <td>第6回 からだのしくみ循環器</td> <td>第21回 身じたくの基礎的知識②</td> </tr> <tr> <td>第7回 からだのしくみ消化器①</td> <td>第22回 身じたくのしくみ</td> </tr> <tr> <td>第8回 からだのしくみ消化器②</td> <td>第23回 心身機能低下と身じたく</td> </tr> <tr> <td>第9回 からだのしくみ泌尿器</td> <td>第24回 身じたくに関する観察</td> </tr> <tr> <td>第10回 からだのしくみ関節</td> <td>第25回 食事の基礎的知識①</td> </tr> <tr> <td>第11回 からだのしくみ骨</td> <td>第26回 食事の基礎的知識②</td> </tr> <tr> <td>第12回 からだのしくみ筋肉</td> <td>第27回 食事のしくみ</td> </tr> <tr> <td>第13回 からだのしくみ内分泌</td> <td>第28回 心身機能低下と食事</td> </tr> <tr> <td>第14回 からだのしくみ血液</td> <td>第29回 食事に関する観察</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間試験</td> <td>第30回 定期試験</td> </tr> </table>			第1回 「健康とは」何か	第16回 移動の基礎的知識	第2回 からだのしくみ身体各部	第17回 移動のしくみ	第3回 からだのしくみ脳・神経	第18回 心身機能低下と移動	第4回 からだのしくみ感覚器	第19回 移動に関する観察	第5回 からだのしくみ呼吸器	第20回 身じたくの基礎的知識①	第6回 からだのしくみ循環器	第21回 身じたくの基礎的知識②	第7回 からだのしくみ消化器①	第22回 身じたくのしくみ	第8回 からだのしくみ消化器②	第23回 心身機能低下と身じたく	第9回 からだのしくみ泌尿器	第24回 身じたくに関する観察	第10回 からだのしくみ関節	第25回 食事の基礎的知識①	第11回 からだのしくみ骨	第26回 食事の基礎的知識②	第12回 からだのしくみ筋肉	第27回 食事のしくみ	第13回 からだのしくみ内分泌	第28回 心身機能低下と食事	第14回 からだのしくみ血液	第29回 食事に関する観察	第15回 中間試験	第30回 定期試験
第1回 「健康とは」何か	第16回 移動の基礎的知識																																
第2回 からだのしくみ身体各部	第17回 移動のしくみ																																
第3回 からだのしくみ脳・神経	第18回 心身機能低下と移動																																
第4回 からだのしくみ感覚器	第19回 移動に関する観察																																
第5回 からだのしくみ呼吸器	第20回 身じたくの基礎的知識①																																
第6回 からだのしくみ循環器	第21回 身じたくの基礎的知識②																																
第7回 からだのしくみ消化器①	第22回 身じたくのしくみ																																
第8回 からだのしくみ消化器②	第23回 心身機能低下と身じたく																																
第9回 からだのしくみ泌尿器	第24回 身じたくに関する観察																																
第10回 からだのしくみ関節	第25回 食事の基礎的知識①																																
第11回 からだのしくみ骨	第26回 食事の基礎的知識②																																
第12回 からだのしくみ筋肉	第27回 食事のしくみ																																
第13回 からだのしくみ内分泌	第28回 心身機能低下と食事																																
第14回 からだのしくみ血液	第29回 食事に関する観察																																
第15回 中間試験	第30回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義以外にもグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習をしてスムーズな演習に努めてください。																																
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師・言語聴覚士																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1学年・2学年	1年後期・2年前期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	こころとからだのしくみⅡ	中田 史宏	4単位 60時間																														
授業の概要 (授業の目的)	生活支援を行う際に必要な知識を理解し、介護の場面に応じた観察ができるように根拠を学ぶ。生命を維持する仕組みについて学び、基本的なバイタルサインの測定ができるようになる。人生の最終段階にある人とその家族を支援するための基礎的な知識を理解する。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の支援に必要とする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる ・基本的なバイタルサインの基礎知識を理解し、測定ができる ・終末期の状態について理解し医療職との連携を考慮することができる 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 入浴・清潔の基礎知識</td> <td style="width: 50%;">第16回 こころのしくみ①</td> </tr> <tr> <td>第2回 入浴・清潔のしくみ</td> <td>第17回 こころのしくみ②</td> </tr> <tr> <td>第3回 心身機能低下と入浴・清潔</td> <td>第18回 こころのしくみ③</td> </tr> <tr> <td>第4回 入浴に関する観察</td> <td>第19回 バイタルサインの基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第5回 清潔に関する観察</td> <td>第20回 バイタルサインの測定</td> </tr> <tr> <td>第6回 排泄の基礎知識</td> <td>第21回 フィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第7回 排泄のしくみ</td> <td>第22回 薬の知識</td> </tr> <tr> <td>第8回 心身機能低下と排泄</td> <td>第23回 終末期の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第9回 排泄に関する観察①</td> <td>第24回 終末期のこころの理解</td> </tr> <tr> <td>第10回 排泄に関する観察②</td> <td>第25回 終末期のからだの理解</td> </tr> <tr> <td>第11回 休息・睡眠の基礎知識</td> <td>第26回 終末期での医療連携</td> </tr> <tr> <td>第12回 休息・睡眠のしくみ</td> <td>第27回 終末期での家族ケア</td> </tr> <tr> <td>第13回 心身機能低下と休息睡眠</td> <td>第28回 科目のまとめ製作</td> </tr> <tr> <td>第14回 休息・睡眠に関する観察</td> <td>第29回 まとめ発表</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間試験</td> <td>第30回 定期試験</td> </tr> </table>			第1回 入浴・清潔の基礎知識	第16回 こころのしくみ①	第2回 入浴・清潔のしくみ	第17回 こころのしくみ②	第3回 心身機能低下と入浴・清潔	第18回 こころのしくみ③	第4回 入浴に関する観察	第19回 バイタルサインの基礎知識	第5回 清潔に関する観察	第20回 バイタルサインの測定	第6回 排泄の基礎知識	第21回 フィジカルアセスメント	第7回 排泄のしくみ	第22回 薬の知識	第8回 心身機能低下と排泄	第23回 終末期の基礎知識	第9回 排泄に関する観察①	第24回 終末期のこころの理解	第10回 排泄に関する観察②	第25回 終末期のからだの理解	第11回 休息・睡眠の基礎知識	第26回 終末期での医療連携	第12回 休息・睡眠のしくみ	第27回 終末期での家族ケア	第13回 心身機能低下と休息睡眠	第28回 科目のまとめ製作	第14回 休息・睡眠に関する観察	第29回 まとめ発表	第15回 中間試験	第30回 定期試験
第1回 入浴・清潔の基礎知識	第16回 こころのしくみ①																																
第2回 入浴・清潔のしくみ	第17回 こころのしくみ②																																
第3回 心身機能低下と入浴・清潔	第18回 こころのしくみ③																																
第4回 入浴に関する観察	第19回 バイタルサインの基礎知識																																
第5回 清潔に関する観察	第20回 バイタルサインの測定																																
第6回 排泄の基礎知識	第21回 フィジカルアセスメント																																
第7回 排泄のしくみ	第22回 薬の知識																																
第8回 心身機能低下と排泄	第23回 終末期の基礎知識																																
第9回 排泄に関する観察①	第24回 終末期のこころの理解																																
第10回 排泄に関する観察②	第25回 終末期のからだの理解																																
第11回 休息・睡眠の基礎知識	第26回 終末期での医療連携																																
第12回 休息・睡眠のしくみ	第27回 終末期での家族ケア																																
第13回 心身機能低下と休息睡眠	第28回 科目のまとめ製作																																
第14回 休息・睡眠に関する観察	第29回 まとめ発表																																
第15回 中間試験	第30回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。																																
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	発達と老化の理解	中田 史宏	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	人間の成長と発達の基本的知識を学び、各ライフサイクルにおける特徴と発達課題及び特徴的な疾患を理解する。老化や加齢に伴う身体機能の変化が日常生活にどのような影響があるかを学ぶ。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・老化や加齢に伴う身体的機能の変化が、日常生活にどのような影響があるのか学ぶことができる ・生活習慣病の基本的知識を理解できる ・内部障害を含めた高齢者に多い疾患や留意点を学ぶことができる ・他職種との連携の必要性を学ぶことができる 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 成長と発達の基礎的理解①</td> <td style="width: 50%;">第16回 老化期の変化と生活①</td> </tr> <tr> <td>第2回 成長と発達の基礎的理解②</td> <td>第17回 老化期の変化と生活②</td> </tr> <tr> <td>第3回 成長と発達の基礎的理解③</td> <td>第18回 老化期の変化と生活③</td> </tr> <tr> <td>第4回 発達段階と発達課題①</td> <td>第19回 老化期の変化と生活④</td> </tr> <tr> <td>第5回 発達段階と発達課題②</td> <td>第20回 老化期の変化と生活⑤</td> </tr> <tr> <td>第6回 発達段階と発達課題③</td> <td>第21回 老化期の変化と生活⑥</td> </tr> <tr> <td>第7回 発達段階と発達課題④</td> <td>第22回 高齢者と健康①</td> </tr> <tr> <td>第8回 発達段階と発達課題⑤</td> <td>第23回 高齢者と健康②</td> </tr> <tr> <td>第9回 発達段階と発達課題総論</td> <td>第24回 高齢者と健康③</td> </tr> <tr> <td>第10回 老年期の特徴①</td> <td>第25回 高齢者と健康④</td> </tr> <tr> <td>第11回 老年期の特徴②</td> <td>第26回 高齢者と健康⑤</td> </tr> <tr> <td>第12回 老年期の特徴③</td> <td>第27回 高齢者と健康⑥</td> </tr> <tr> <td>第13回 老年期の特徴④</td> <td>第28回 高齢者と健康⑦</td> </tr> <tr> <td>第14回 老年期の特徴総論</td> <td>第29回 高齢者と健康⑧</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間試験</td> <td>第30回 定期試験</td> </tr> </table>			第1回 成長と発達の基礎的理解①	第16回 老化期の変化と生活①	第2回 成長と発達の基礎的理解②	第17回 老化期の変化と生活②	第3回 成長と発達の基礎的理解③	第18回 老化期の変化と生活③	第4回 発達段階と発達課題①	第19回 老化期の変化と生活④	第5回 発達段階と発達課題②	第20回 老化期の変化と生活⑤	第6回 発達段階と発達課題③	第21回 老化期の変化と生活⑥	第7回 発達段階と発達課題④	第22回 高齢者と健康①	第8回 発達段階と発達課題⑤	第23回 高齢者と健康②	第9回 発達段階と発達課題総論	第24回 高齢者と健康③	第10回 老年期の特徴①	第25回 高齢者と健康④	第11回 老年期の特徴②	第26回 高齢者と健康⑤	第12回 老年期の特徴③	第27回 高齢者と健康⑥	第13回 老年期の特徴④	第28回 高齢者と健康⑦	第14回 老年期の特徴総論	第29回 高齢者と健康⑧	第15回 中間試験	第30回 定期試験
第1回 成長と発達の基礎的理解①	第16回 老化期の変化と生活①																																
第2回 成長と発達の基礎的理解②	第17回 老化期の変化と生活②																																
第3回 成長と発達の基礎的理解③	第18回 老化期の変化と生活③																																
第4回 発達段階と発達課題①	第19回 老化期の変化と生活④																																
第5回 発達段階と発達課題②	第20回 老化期の変化と生活⑤																																
第6回 発達段階と発達課題③	第21回 老化期の変化と生活⑥																																
第7回 発達段階と発達課題④	第22回 高齢者と健康①																																
第8回 発達段階と発達課題⑤	第23回 高齢者と健康②																																
第9回 発達段階と発達課題総論	第24回 高齢者と健康③																																
第10回 老年期の特徴①	第25回 高齢者と健康④																																
第11回 老年期の特徴②	第26回 高齢者と健康⑤																																
第12回 老年期の特徴③	第27回 高齢者と健康⑥																																
第13回 老年期の特徴④	第28回 高齢者と健康⑦																																
第14回 老年期の特徴総論	第29回 高齢者と健康⑧																																
第15回 中間試験	第30回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。																																
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	認知症の理解	中村 晃一・庄司麻美・鎌田小百合	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	認知症を医学的・心理的側面から原因疾患及び段階に応じた変化や症状を理解する。家族への支援、地域の役割を学び、地域で認知症になっても暮らし続けることができる生活支援ができるように、個別性に沿ったアセスメントを行い、本人中心とした認知症ケアの実践を理解する。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症を取り巻く背景や施策、認知症のある人の状況が理解できる ・ 認知症のある人の特性を踏まえて支える介護について根拠となる知識を深めることができる。 ・ 家族への支援や地域でのサポート体制が理解できる 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 回 認知症とは何か</td> <td style="width: 50%;">第 1 6 回 認知症ケアの実際①</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 脳のしくみ</td> <td>第 1 7 回 認知症ケアの実際②</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 認知症の人の心理</td> <td>第 1 8 回 認知症ケアの実際③</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 中核症状の理解</td> <td>第 1 9 回 認知症ケアの実際④</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 生活障害の理解</td> <td>第 2 0 回 認知症ケアの実際⑤</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 BPSD の理解①</td> <td>第 2 1 回 認知症ケアの実際⑥</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 BPSD の理解②</td> <td>第 2 2 回 介護者支援①</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 認知症の診断</td> <td>第 2 3 回 介護者支援②</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 認知症の原因疾患</td> <td>第 2 4 回 地域生活支援①</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回 認知症の治療薬</td> <td>第 2 5 回 地域生活支援②</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回 認知症の予防</td> <td>第 2 6 回 事例検討①</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回 認知症を取り巻く状況</td> <td>第 2 7 回 事例検討②</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回 認知症ケアの理念</td> <td>第 2 8 回 事例検討③</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回 認知症当事者の視点</td> <td>第 2 9 回 事例検討④</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回 中間試験</td> <td>第 3 0 回 定期試験</td> </tr> </table>			第 1 回 認知症とは何か	第 1 6 回 認知症ケアの実際①	第 2 回 脳のしくみ	第 1 7 回 認知症ケアの実際②	第 3 回 認知症の人の心理	第 1 8 回 認知症ケアの実際③	第 4 回 中核症状の理解	第 1 9 回 認知症ケアの実際④	第 5 回 生活障害の理解	第 2 0 回 認知症ケアの実際⑤	第 6 回 BPSD の理解①	第 2 1 回 認知症ケアの実際⑥	第 7 回 BPSD の理解②	第 2 2 回 介護者支援①	第 9 回 認知症の診断	第 2 3 回 介護者支援②	第 9 回 認知症の原因疾患	第 2 4 回 地域生活支援①	第 1 0 回 認知症の治療薬	第 2 5 回 地域生活支援②	第 1 1 回 認知症の予防	第 2 6 回 事例検討①	第 1 2 回 認知症を取り巻く状況	第 2 7 回 事例検討②	第 1 3 回 認知症ケアの理念	第 2 8 回 事例検討③	第 1 4 回 認知症当事者の視点	第 2 9 回 事例検討④	第 1 5 回 中間試験	第 3 0 回 定期試験
第 1 回 認知症とは何か	第 1 6 回 認知症ケアの実際①																																
第 2 回 脳のしくみ	第 1 7 回 認知症ケアの実際②																																
第 3 回 認知症の人の心理	第 1 8 回 認知症ケアの実際③																																
第 4 回 中核症状の理解	第 1 9 回 認知症ケアの実際④																																
第 5 回 生活障害の理解	第 2 0 回 認知症ケアの実際⑤																																
第 6 回 BPSD の理解①	第 2 1 回 認知症ケアの実際⑥																																
第 7 回 BPSD の理解②	第 2 2 回 介護者支援①																																
第 9 回 認知症の診断	第 2 3 回 介護者支援②																																
第 9 回 認知症の原因疾患	第 2 4 回 地域生活支援①																																
第 1 0 回 認知症の治療薬	第 2 5 回 地域生活支援②																																
第 1 1 回 認知症の予防	第 2 6 回 事例検討①																																
第 1 2 回 認知症を取り巻く状況	第 2 7 回 事例検討②																																
第 1 3 回 認知症ケアの理念	第 2 8 回 事例検討③																																
第 1 4 回 認知症当事者の視点	第 2 9 回 事例検討④																																
第 1 5 回 中間試験	第 3 0 回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 8 0 % 提出課題 2 0 % 基準：S (9 0 点以上)、A (8 0 点以上)、B (7 0 点以上)、C (6 0 点以上)、D (5 9 点以下) ※C 以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義に加え、個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。																																
教員紹介	精神医療現場にて 10 年以上の臨床経験のある教員が指導する。																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																														
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義																														
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																														
必修専門科目	障害の理解	岩戸徹	4 単位 60 時間																														
授業の概要 (授業の目的)	障害のある人の心理や身体機能などの基礎的知識を習得するとともに、生活支援の方法について学習する。本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した支援・介護について学習する。																																
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の医学的・心理的側面から基礎知識を深めることができる ・ 障害の特性に応じた介助方法を理解することができる ・ 障害のある人に関連した制度について理解できる ・ 家族支援の在り方を考え、介護力に応じた支援に繋げることができる 																																
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 回 障害の概念</td> <td style="width: 50%;">第 1 6 回 知的障害①</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 障害福祉の基本理念</td> <td>第 1 7 回 知的障害①</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 障害福祉制度</td> <td>第 1 8 回 精神障害①</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 肢体不自由①</td> <td>第 1 9 回 精神障害②</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 肢体不自由②</td> <td>第 2 0 回 精神障害③</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 視覚障害①</td> <td>第 2 1 回 高次脳機能障害①</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 視覚障害②</td> <td>第 2 2 回 高次脳機能障害②</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 聴覚障害①</td> <td>第 2 3 回 発達障害②</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 聴覚障害②</td> <td>第 2 4 回 発達障害②</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回 重複障害</td> <td>第 2 5 回 難病①</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回 内部障害①</td> <td>第 2 6 回 難病②</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回 内部障害②</td> <td>第 2 7 回 地域のサポート体制</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回 内部障害③</td> <td>第 2 8 回 チームアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回 重症心身障害</td> <td>第 2 9 回 家族への支援</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回 中間試験</td> <td>第 3 0 回 定期試験</td> </tr> </table>			第 1 回 障害の概念	第 1 6 回 知的障害①	第 2 回 障害福祉の基本理念	第 1 7 回 知的障害①	第 3 回 障害福祉制度	第 1 8 回 精神障害①	第 4 回 肢体不自由①	第 1 9 回 精神障害②	第 5 回 肢体不自由②	第 2 0 回 精神障害③	第 6 回 視覚障害①	第 2 1 回 高次脳機能障害①	第 7 回 視覚障害②	第 2 2 回 高次脳機能障害②	第 9 回 聴覚障害①	第 2 3 回 発達障害②	第 9 回 聴覚障害②	第 2 4 回 発達障害②	第 1 0 回 重複障害	第 2 5 回 難病①	第 1 1 回 内部障害①	第 2 6 回 難病②	第 1 2 回 内部障害②	第 2 7 回 地域のサポート体制	第 1 3 回 内部障害③	第 2 8 回 チームアプローチ	第 1 4 回 重症心身障害	第 2 9 回 家族への支援	第 1 5 回 中間試験	第 3 0 回 定期試験
第 1 回 障害の概念	第 1 6 回 知的障害①																																
第 2 回 障害福祉の基本理念	第 1 7 回 知的障害①																																
第 3 回 障害福祉制度	第 1 8 回 精神障害①																																
第 4 回 肢体不自由①	第 1 9 回 精神障害②																																
第 5 回 肢体不自由②	第 2 0 回 精神障害③																																
第 6 回 視覚障害①	第 2 1 回 高次脳機能障害①																																
第 7 回 視覚障害②	第 2 2 回 高次脳機能障害②																																
第 9 回 聴覚障害①	第 2 3 回 発達障害②																																
第 9 回 聴覚障害②	第 2 4 回 発達障害②																																
第 1 0 回 重複障害	第 2 5 回 難病①																																
第 1 1 回 内部障害①	第 2 6 回 難病②																																
第 1 2 回 内部障害②	第 2 7 回 地域のサポート体制																																
第 1 3 回 内部障害③	第 2 8 回 チームアプローチ																																
第 1 4 回 重症心身障害	第 2 9 回 家族への支援																																
第 1 5 回 中間試験	第 3 0 回 定期試験																																
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解」中央法規出版																																
参考書	プリントを適時配布する																																
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 8 0 % 提出課題 2 0 % 基準：S (9 0 点以上)、A (8 0 点以上)、B (7 0 点以上)、C (6 0 点以上)、D (5 9 点以下) ※C 以上を合格とする																																
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習グループでの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。																																
教員紹介	理学療法士として群馬県のリハビリテーション病院等での臨床経験をもつ教員が講義をします。																																

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	後期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	医療的ケア	中田 史宏	4 単位 81 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護職でもできる医療的ケアについて理解をして、安全・適切に実施するために必要な知識・技術を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに必要な基礎知識が理解できる ・喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識及び実施手順・留意点が理解できる ・演習にて、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養・救急蘇生法の確実な手技が習得できる 		
授業計画	<p>第1回 医療的ケアとは 第18回 喀痰吸引実施手順解説②</p> <p>第2回 保健医療制度 第19回 喀痰吸引実施手順解説③</p> <p>第3回 安全な療養生活 第20回 喀痰吸引実施手順解説④</p> <p>第4回 救急蘇生法① 第21回 喀痰吸引実施手順解説⑤</p> <p>第5回 救急蘇生法② 第22回 経管栄養概論①</p> <p>第6回 感染予防 第23回 経管栄養概論②</p> <p>第7回 介護福祉職の感染予防① 第24回 経管栄養概論③</p> <p>第8回 健康状態の把握① 第25回 経管栄養概論④</p> <p>第9回 健康状態の把握② 第26回 経管栄養概論⑤</p> <p>第10回 喀痰吸引概論① 第27回 経管栄養概論⑥</p> <p>第11回 喀痰吸引概論② 第28回 経管栄養概論⑦</p> <p>第12回 喀痰吸引概論③ 第29回 経管栄養実施手順解説①</p> <p>第13回 喀痰吸引概論④ 第30回 経管栄養実施手順解説②</p> <p>第14回 喀痰吸引概論⑤ 第31回 経管栄養実施手順解説③</p> <p>第15回 喀痰吸引概論⑥ 第32回 経管栄養実施手順解説④</p> <p>第16回 喀痰吸引概論⑦ 第33回 経管栄養実施手順解説⑤</p> <p>第17回 介護福祉職の感染予防② 第34回 定期試験</p> <p>講義とは別に計20コマ(第35回～第54回)を演習とする。</p> <p>演習には 喀痰吸引 口腔 5回以上 経管栄養 胃ろう 5回以上</p> <p style="padding-left: 40px;">鼻腔 5回以上 経鼻経管栄養 5回以上</p> <p style="padding-left: 40px;">気管カニューレ5回以上</p> <p style="padding-left: 40px;">救急蘇生法演習 1回以上 を含むものとする。</p> <p>※講義時間51時間・演習時間30時間、合計81時間</p>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験80% 提出課題20% 基準：S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの講義・演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	基礎学習講座	中田 史宏 鈴木 健二郎	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護職が使う専門用語について理解をして、実施において使用するために知識を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な専門用語が理解できる ・ 専門的な用語の意味が理解できる ・ 実践において専門用語を適切に使用することができる 		
授業計画	第 1 回～3 回 専門用語 解剖生理 第 4 回～6 回 専門用語 介護技術 第 7 回～9 回 専門用語 医療的ケア 第 10 回～12 回 専門用語 介護の制度 第 13 回～14 回 専門用語 老年期の介護 第 15 回 定期試験		
教科書			
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価の方法：定期試験 80%、小テスト 20% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布プリントを使用して専門用語を身につける		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の看護師、臨床経験 10 年以上の介護福祉士、実習生の指導経験のある臨床経験 20 年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	総合介護福祉論	竹内克、中田史宏、鈴木健二郎、山下直子	6 単位 90 時間
授業の概要 (授業の目的)	専門的知識を確実に持った介護福祉士になるために必要な知識を全般的かつ確実に定着させる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の内容についての理解度の評価を行い、知識の定着と理解を深める ・介護福祉士としての知識全般の定着と理解を深める。 		
授業計画	第 1 回~第 3 回 履修科目の模擬問題① 第 4 回~第 6 回 模擬問題①の解説 第 7 回~第 9 回 履修科目の模擬問題② 第 10 回~第 12 回 模擬問題②の解説 第 13 回~第 15 回 履修科目の模擬問題③ 第 16 回~第 18 回 模擬問題③の解説 第 19 回~第 21 回 履修科目の模擬問題④ 第 22 回~24 回 模擬問題④の解説 第 25 回~第 27 回 履修科目の模擬問題⑤ 第 28 回~30 回 模擬問題⑤の解説 第 31 回~第 33 回 履修科目の模擬問題⑥ 第 34 回~36 回 模擬問題⑥の解説 第 37 回~39 回 履修科目の模擬問題⑦ 第 40 回~42 回 模擬問題⑦の解説 第 43 回~45 回 自己分析と傾向対策		
教科書	国家試験過去問題集及び予想問題		
参考書	必要時プリントを配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：授業内での小テスト 50%、課題提出 50% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	問題集に取り組むことで自身の苦手分野の克服に努めて下さい。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の看護師、臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 20 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士		

2022年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	2 年後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	家庭科	山下直子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	日常生活で自立した生活を支えるために介護者として必要な知識・技術を学びます。楽しい日常生活を送れるように、生活の楽しさを理解します。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な縫物の技術を生かし、作品が作れるようになる ・ 味噌汁の作り方を習得調理できる ・ アイロンの使用方法を学び、綺麗にかける技術を習得する 		
授業計画	第 1 回 新聞紙で作るカバン作り 第 2 回 卵料理 第 3 回 おかゆ 第 4 回 おむすび作り 第 5 回 味噌汁作り 第 6 回 基本的な縫物技術 (①縫い方を覚えよう) 第 7 回 基本的な縫物技術 (②ボタンをつけてみよう) 第 8 回 雑巾を作る① 第 9 回 雑巾を作る② 第 10 回 T シャツで巾着作り① 第 11 回 T シャツで巾着作り② 第 12 回 T シャツで巾着作り③ 第 13 回 アイロンのかけ方を学びます 第 14 回 選択表示と手洗い方法について 第 15 回 蒸しパン作りとおいしいお茶の入れ方		
教科書	適宜プリント配布		
参考書			
成績評価の方法・基準	評価方法：授業中に作成した成果物の完成度 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	調理実習時には衛生管理に努め、爪は短く切り、アクセサリは外すこと。エプロン持参のこと		
教員紹介	臨床経験 20 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		